

コラム

舟を並べて阿賀野川に橋をかけた！
～明治天皇の北陸巡幸～

橋がなく、人々がまだ舟で往来をしていたころ、明治天皇が阿賀野川の橋を渡りました。

このころ、天皇は国民生活のようすを知ることや、新政府の政策を広く行き渡らせることなどを目的に、全国各地を巡幸していました。新潟県をはじめ北陸地方や東海地方の視察も行われました。

現在の新潟市域には、1878（明治11）年9月16～21日に滞在しました。北区を通られたのは9月19日で、天皇は新潟から新発田まで新発田街道を歩いて移動されました。

橋がなかった阿賀野川には、天皇が川を渡るために、特別に橋がかけられました。その橋は、舟を横に95隻並べ、その上に厚板を縦に渡して造られたものです。天皇は、その舟橋を板輿に乗って渡られたあと、新崎の古山家（太古山日長堂）で休憩、内島見の近藤家（内島見行在所跡）で昼食をとられ、新発田へ向かわれました。



舟橋の想像図

太古山日長堂たいこさん にっ ちよう どうってお寺さんですか？

泰平橋手前の主要地方道 新潟・新発田・村上線（旧国道7号線）に面した北側に太古山日長堂があります。もともと「新崎7軒衆にいざしちけんしゅう」のひとりで名主なぬしも務めた古山家の邸宅です。

木造平屋建ての主屋「日長堂ほう」は宝暦年間（1751～64）に建てられました。主屋とつながる仏蔵ぶつぐら「開山堂かいざんどう」は19世紀に建てられ、当時の豪農の仏堂の形を伝えています。いずれも2000（平成12）年、国の登録有形文化財となりました。また、邸内つぎやまの築山の庭園は「太古山」と呼ばれています。

この「太古山日長堂」の名称は、中国の宋の時代の詩人、唐庚とうこうが読んだ「醉眠すいみん」という漢詩の「山静似太古 日長如小年」という一節によります。「山は静かで、まるで太古のようだ。1日は長くて、1年にも感じられる」という意味です。

また、1878（明治11）年の明治天皇の北陸巡幸のときには、小休所として利用されました。1885（明治18）年に古山

家の12代当主となった古山文静ぶんせいは、行幸地ぎょうちの史跡としての整備を積極的に行いました。新崎の創立を記した「新崎邸碑むら」をはじめ、様々な名士、偉人と交流し、その事績や筆跡を刻んだ石碑などを「太古山」にたくさん建てました。

この太古山日長堂のとなりには、「門樋もんひの生き地藏」と呼ばれる地藏様を安置しているお堂があります。この地藏様は台座に「明和2年（1765年）3月」と彫られていて、大変古い地藏様です。240年以上、地域の人々から厚く信仰されています。

MEMO

新崎7軒衆

新崎開発の祖を新崎7軒衆といえます。戦国時代の天文年間（1532～1554）に信濃国（長野県）から移住してきました。古山家をリーダーに佐藤・伊藤・高橋・井上・土田・豊崎の7家が田畑を開発して村を形成したと伝えられます。子孫は今でも新崎で暮らしています。

